

宮柁二記念館だより

2012.4.30

第 37 号

発行 宮柁二記念館

TEL・FAX

025-794-3800



宮柁二記念館開館テープカット

宮柁二生誕100年・宮柁二記念館開館20周年

記念の年が重なりました

平成四年の宮柁二記念館のオープンから、今年で二〇年が経過します。当記念館は、昭和六十一年に宮柁二が没したのち、その業績を永く後世に伝えたいとの願いから、大勢の皆様方の手によって設立されました。

ご遺族をはじめ、宮柁二と縁の深かった方々から、貴重な資料を多数お寄せいただき、これまでに、特別資料で約二、〇〇〇点、図書資料で六、〇〇〇点を収蔵することができました。これらの資料は、当館での展示はもちろんのこと、各地の宮柁二はじめ現代短歌の研究にも寄与されています。

また、同じく今年に宮柁二生誕一〇〇年の年にもあたります。宮柁二の業績をあらためて見直す一年になりますが、当館では「一〇〇」にこだわった企画展示「宮柁二の遺産一〇〇選」を行い、宮柁二を語るうえで欠かせない資料を紹介します。

宮柁二の遺産二〇〇選

宮柁二の生誕二〇〇年にちなんだ「二〇〇」選
これを見ずして、宮柁二は語れない。



柁二の歌集『小紺珠』の出版を祝して開かれた会での寄せ書き。柁二への期待が込められている様子がわかります。

昭和28年に柁二を中心として結成されたコスモス短歌会は、今も多くの会員による学びの場となっています。



歌集には特装本もあります。写真は歌集「純黄」。表紙には美しいスタンドグラスが埋め込まれています。

「夏爐冬扇 用なき男となりはてて翁の言葉身にぞ沁む柁二」晩年の一首。柁二は生涯埋没の姿勢を貫き通しました。

開館二〇周年を迎える宮柁二記念館には、宮柁二の貴重な資料が多数収蔵されています。宮柁二生誕二〇〇年の今年、その二〇〇にこだわって、選りすぐりの資料二〇〇点を紹介します。ぜひ多くの方々からご覧いただき、宮柁二が遺した業績をしのんでいただきたいと思います。

宮柁二の生誕二〇〇年と宮柁二記念館の開館二〇周年が重なった今年、当館が収蔵する資料のなかから、選りすぐりの一〇〇点をご紹介します。これまでテーマ展示の多かった宮柁二記念館ですが、柁二が遺した資料一つ一つをあらためて見つめ直す機会となっています。

宮柁二の遺産とは何でしょうか。歌人である宮柁二が遺したものは、まずは短歌作品であり、そして、その短歌を生み出す人生そのものの姿といえるでしょう。その業績が目に見えるかたちで残っているものが遺産です。

例えば、歌集。柁二が刊行した歌集をお持ちの方もいらっしゃると思います。しかし、歌集発行にあたって、柁二は特別な装丁にしたものも部数を限定してつくることがありました。これらの貴重な特装本も遺産といえるでしょう。

また、柁二が師と仰いでいた北原白秋や釈迢空との親しい交流を示す資料も何点が残っています。

ほかにも、宮柁二が遺した書跡をはじめ、書簡、原稿、交流のあった人々の記念の品々にいたるまで、どれも宮柁二を語るうえで、欠かせない貴重な資料です。それらこそ、宮柁二の大切な遺産といえるでしょう。

このように、テーマ展示のなかでは埋もれてしまいがちな資料の一つ一つに焦点をあて、紹介していくことをとします。

宮柁二を知る上で、この上ない一〇〇の遺産。宮柁二記念館を訪れたことのない方々も、何回かおいでいただいたことのある方々にも、印象に残るようにご紹介したいと考えています。これらの資料を、ご覧になった皆さんの記憶にも遺し、宮柁二の業績をしのんでいただきたいと思います。

平成二十四年度

宮柵二記念館 事業計画

今年は、宮柵二生誕一〇〇年、記念館開館二〇周年を記念し、企画展示、短歌大会を開催します。

◎平成二十四年度 企画展示

- ・テーマ 「宮柵二の遺産一〇〇選」
- ・期間 五月二十六日(土)オープン

◎第18回全国短歌大会

- ・募集開始 五月一日
- ・締切 七月三十一日
- ・一般の部 七月三十一日
- ・ジュニアの部 九月十日
- ・選者 歌人・今野寿美先生
歌人・武田弘之先生
- ・内容 作品は二首 一、〇〇〇円。
海外からの応募、ジュニア部門
(高校生以下)は無料。

【短歌大会】

- ・日時 十一月十八日(日) 正午～
- ・会場 堀之内公民館
(魚沼市堀之内一三〇)

この他にも、「記念館短歌教室」や「ジュニア短歌教室」など様々な事業を企画し、宮柵二記念館の普及に努めていきます。

平成23年度事業の報告

東日本大震災と福島原発事故の深刻な被害のなかではじまった平成23年度は、7月の新潟福島水害、2年続きの豪雪と、自然災害に悩まされた一年となりました。

宮柵二記念館の来館者も733人と平成22年度の半分くらいの量にまで減少したところ。一方、第17回短歌大会はジュニア部門で応募者を伸ばし、前年度より多い4,304人からの応募がありました。

そんななか、新たな取組も行いました。これまでに一般向けに行ってきた短歌教室を、ジュニア向けに開催してみました。これは、短歌大会ジュニア部門の提出が夏休みの宿題になっていることから、その作品づくりの手助けをしようというものです。周知期間も短く少数の参加にとどまりましたが、なかには短歌大会で受賞した児童もあり、今後の可能性を感じさせる取組となりました。

そのほかにも、年9回の短歌教室(2月の歌会は豪雪のため中止)、7月と1月の短歌セミナー、名筆展として「良寛敬慕者展」、ミニコンサートなどを実施しました。

23年度事業から

助動詞の使い方を深く 考察した講演内容



7月10日、歌人の岡崎康行さんによる講演会「『晩夏』と『日本挽歌』過去の助動詞『し』をめぐって」を開催。

歌人・山本清さんの 歌の紹介も交えた内容



1月8日、歌人の田宮朋子さんによる講演会「老いを詠う」を開催。

報告

第十七回宮終二記念館全国短歌大会

八、三五八首の応募

【一般の部】

最優秀賞

十全茄子爪青くして漬けるととき放射能のこと忘れてをりぬ

斎藤礼子

選者賞（御供平估選）

冬の田にやわき陽射しの及ぶ午後ゆつくり出づる一人の散歩に

本城政子

選者賞（水島晴子選）

しなさかる越の茶豆のほひ立ち正座しづけき祖母おばははが見ゆ

山口昭子

【ジュニア部門（小学生の部）】

選者賞（御供平估選）

休み時間まじから風がふいてきた私の本をめくる風だな

佐藤 樹

選者賞（水島晴子選）

夏の風日本海からやってきた潮のにおいが海の手紙だ

渡辺春樹

【ジュニア部門（中学生の部）】

最優秀賞

昼寝する祖父に祖母より大きめのタオルをかけるもうすぐ九月

藤川理子

選者賞（御供平估選）

山登り上へ上へと登ってく山の景気が広がっていく

トンプソン晟志

選者賞（水島晴子選）

きみが跳ぶバーのうしろの青空に白くて軽い翼が見える

小野寺芽衣

【ジュニア部門（高校生の部）】

最優秀賞

風鈴に励まされつつ演習の数式のハードル次々に飛ぶ

山田真生

選者賞（御供平估選）

クーラーががながん当たる今の席みんな暑い私は寒い

茂野早帆

選者賞（水島晴子選）

グラウンドでゴールを目指して走り出す空の光が僕らを包む

清水悠太

第17回 短歌大会 応募状況

区分	応募作品数	応募者数
一般の部	798首	331人
ジュニアの部	7,560首	3,973人
（小学生）	2,542首	1,403人
（中学生）	2,576首	1,299人
（高校生）	2,442首	1,271人
総計	8,358首	4,304人



昨年の第十七回全国短歌大会は、選者に御供平估先生（国民文学）、水島晴子先生（コスモス短歌会）をお迎えし、前年の八、二四九首を上回る八、三五八首が寄せられました。東日本大震災もあり、応募数の減少も懸念されましたが、被災地からも多くの歌をお寄せいただき、短歌が持つ力をあらためて感じさせていただきました。

平成二十三年十一月二十七日には、堀之内公民館を会場にして、盛大な大会が開催されました。会場に

集まった約三百人の参加者の中には、すぐ隣の宮終二記念館を訪れてくださった方もたくさんいました。第十八回となる今年には、選者に今野寿美先生（りとむ短歌会）、武田弘之先生（コスモス短歌会）をお招きして行います。一般の部は七月三十一日、ジュニア部門は九月一日が締め切りとなっています。大勢の方からふるって参加していただきたいと思えます。

思いを深めて

水島晴子

宮柁二記念館全国短歌大会に選者を務めさせていたとき、光榮に存じます。東日本大震災、原発事故はもとより、記録的豪雨による水害など災禍の相次いだこの年に寄せられた作品であることを心に銘じて拝見しました。

一般の部では、日常に根ざして詠み出された作が大多数を占め、その内容は多岐にわたっています。この度の災害を身近に受けとめた歌も数多くあり、陰影の深い味わいを添えていました。心に触れたものを短歌の形でぜひ表現したいとする真率な思いが、どの一首からも伝わって、力強いものを感じました。

ジュニア部門にはきわめて多くの作品が寄せられています。小学生の部では、アイス、すいか、花火、祭りなど夏休みの楽しみのいろいりが明るい調べに乗って登場します。豊かな自然の恵みを受けながら、一方では、被災地を思いやったり節電に励む歌も多くありました。ひとつひとつに活発で無邪気な心が溢れ出る様子が愛らしく、作者の手をとりたくなるような気持ちに駆られました。

中学生の部では、明るい基調は同様ながら部活でがんばる姿、課題をこなせない悩みなどの歌に、内と外へ向かう視線の深まりを感じます。表現面にも詩的な高まり

が現れます。

高校の部では、進路をめぐる折に迷いながらも就職に進学にと取り組む姿が強く印象に残りました。希望を叶えた将来の自分を思い描く歌もあり、エールを送ります。高校生活最後の夏を惜しみ、心惹かれる友を慕い、時に将来への不安をまじえながら、自他を次第に深く見つめてゆくという成長の姿を目の当たりにする感があります。何かを捉え、それを掘り起こすようにして短歌に詠む—そうする事で私たちの思いは深まり、ひいては生きて行く上での力にもつながるものと信じます。

—「入選作品集」より再掲

水島晴子

1935年、大阪府豊中市に生まれる。津田塾大学英文学科卒業。1954年、コスモス短歌会入会、宮柁二、宮英子に師事。1968年、第15回コスモス賞、82年、第4回評論賞を受賞。1970年から1984年までコスモス誌上の「宮柁二作品研究」に執筆メンバーとして参加。東宝読売カルチャー、JTBカルチャー講座、守口市公民館講座等を担当(2004年まで)歌集「天二上」「虹の名所」。現在、コスモス選者、現代歌人協会会員。



今日を生きる自分の声を

御供平信

伝統ある宮柁二記念館の第十七回短歌大会の選者をうれしく勤めさせていた、頂きました。

東日本大震災という千年に一度の悲惨な出来事の残した哀しみが、参加した皆さんの心に深く食い入った時期に作品の募集が行われ、一般・ジュニア学生それぞれの作品の根底にそれが共通するものと思われまます。

一般の部の作品には、地元ということから、新潟県の自然や風土、地域の産業や産物に関わるものが取材された数多くを中心に光るものがありました。お年寄りが孫や子ども、連れ合いを見守る家族詠がとて温かかった。この作

品集は、国外居住者も含まれる幅広い各層の社会人の現代史を踏まえた今日の生活が眼前に展開する大きなアンソロジーとして、教えられることの多い、読み応えのある感動的な一冊となった感慨があります。

小学生の部では、学校単位の参加に先生方の指導の苦心のあとが伺われる中で、一年生から六年生まで、一人のふつうの自分が何をみて、何を感じたかのおどろきや大発見がすなおに表現された秀作が数多くありました。

中学生の部では、家族の中の自分、自然の中の自分、社会の中の自分へと一段一段と視野が広がっ

ていく、そのときそのときの環境をしつかり見極めようという態度、経験を詠い残そうとする意欲が感じられました。

高校生の部は、未来をみつめて今を生きることの大切さを、着実に短歌という詩形の中に刻印して行こうという堅実さ、日常が文学となることの意味合いが確実に作者の手の中にあるという実在感にあふれていました。

世界にただ一人の自分が、ただ一つの事実と向かい合っていた。だからこんなにも君だけの歌が詠えたのです。

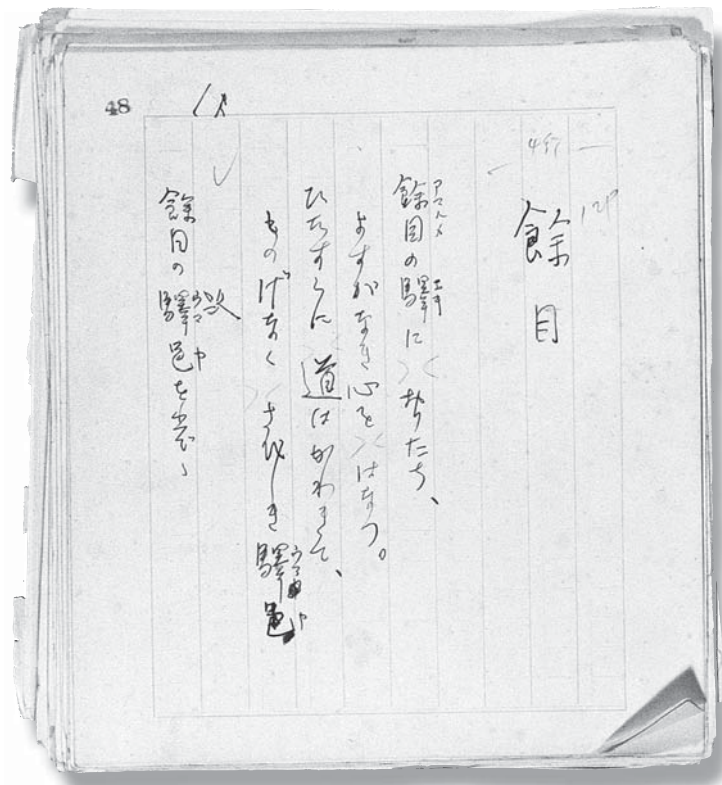
—「入選作品集」より再掲

御供平信

1944年、群馬県藤岡市に生まれる。新幹線の運転士を目指し旧国鉄に入社。鉄道公安職員にて駅頭の犯罪捜査に従事。国鉄解体後、裁判所事務官にて定年。1962年、奥村晃作氏の「紫蘇の実」入会、1963年「国民文学」入会。松村英一、千代国一に師事。1966年、同人。現在、選者、編集人。歌集『河岸段丘』『車站』『冬の稲妻』『神流川』。歌書『短歌推敲のポイント』など。『神流川』で日本歌人クラブ賞。日本歌人クラブ中央幹事を経て本部参与。現代歌人協会会員、埼玉県歌人会副会長。国民文化祭短歌部門選者等歴任。



『古代感愛集』
直筆原稿



宮柁二記念館収蔵資料紹介 NO. 37

柁二が師と仰いでいた釈迢空。その歌集『古代感愛集』は昭和22年に刊行されました。なぜ柁二のもとにこれだけの原稿が残っているのかは、実は定かではありませんが、当時、柁二はその出版元となった青磁社の編集者と親しくしており、その仲立ちで、迢空から特別に譲り受けたのではないかとされています。

宮柁二墓所
樹木伐採に協力しました

宮柁二の墓碑のある宮林は古くからの樹木が多く、中には台風や豪雪の際に、大きな枝が折れ、落ちてくることがありました。平成二十三年の春には大きな枝折れがあり、柁二墓所の場所にもかかるほどでした。地権者の方々などともご相談し、来訪者の安全面の確保から、宮柁二記念館友の会としても経費の負担を協力することとしました。その後、雪の時期になってから、倒れたり枝が落ちたりする危険性のある樹木の伐採を行いました。これからも大勢の皆様からご訪問いただきたいと思っています。



「友の会」からのお知らせ

「宮柁二記念館友の会」では会員を募集しています。友の会からは、宮柁二記念館の活動に様々な支援をいただいています。会員には記念館だよりをお届けするほか、企画展や各種事業のご案内をいたします。年会費は、1,000円です。詳しくは、宮柁二記念館にお問い合わせください。

宮柁二記念館だより 第37号

発行 2012. 4. 30

問合せ 宮柁二記念館 (〒949-7413 新潟県魚沼市堀之内117-6)

TEL・FAX 025-794-3800

メール miya-museum@city.uonuma.niigata.jp

ホームページ

http://www.city.uonuma.niigata.jp/miyashuji